



スクールリポート

▶ 学校教育課
☎23-3679

学校生活の
一コマを
紹介



「地元の環境を学ぶ」 白谷の海を守ろう

童浦小学校



●海の生き物を観察する児童



●海岸でゴミを拾う児童

4年生では、総合的な学習の時間を中心に、環境学習を行っています。平成30年度は、アイシン環境プログラムを実施し、「シンパシーワークショップ(自然と自分たちのつながりを考える環境学習)」などの講座を通して、海や川の生き物と人との関わりを考えたり、自らの生活状況をエコの観点から振り返ったりしました。

また、実際に白谷の海に出かけて、地域の方を講師に招いて海の生き物について説明を受けたり、実際に海岸で海の生き物を観察したりしました。

これらのことから、子どもたち一人一人が、環境保全に向けた取り組みを考え、学びを新聞にまとめました。その中で、多くの子ども達が、自分たちのできるエコアクションとして、「白谷の海が汚れて生き物が住めなくなる前に、海岸清掃に出掛けよう」と考え、海岸清掃に出掛けました。

海岸清掃を終えて子どもたちは、ペットボトルやビニール袋がたくさん落ちていたり、遠くから流れ着いたゴミが多かったりすることに気付きました。愛する地元の海を守ることで、日々の生活の中からゴミを出さないことの大切さも学ぶことができました。



「歴史を学び、未来を考える」 みんな集まれ！二七の市

田原中部小学校

「二七の市のこと、聞いたことあるよ」「朝早く、お店が出ているんだよね」「わたしは、はじめて聞いたな。どんなところだろう」田原中部小学校の3年生では、夢育活動(総合的な学習)の時間に、二七の市について勉強をしています。

二七の市について、子どもたちは、家の人から聞いたり、インターネットを使って調べたりしました。二七の市は昔からずっと続いており、開催場所を変えながら今の場所に来たこと、家の人の子どもの頃はもっとたくさんの店が出ていて、いろいろな物を売っていたことなどを知りました。

子どもたちは早朝、二七の市に出掛け、花や野菜を買いながら、お店の方からいろいろな話を聞きました。お店の方たちも、「子どもたちが来てくれてうれしい」「昔は、もっとにぎやかだったよ」などと笑顔で話してくれました。

「二七の市がずっと続くといいね」「もっとお客さんが来てくれるといいね」と、子どもたちは、二七の市への思いを新たに、自分たちにできることは何かを考え動き出しています。みなさんもぜひ、二七の市へお出掛けください。



●おばあさんから昔のことを聞く児童



●二七の市でインタビューする児童